

令和5年度 がん教育等外部講師連携支援事業「がん教育外部講師派遣」 報告書

学校等名 対馬市立東部中学校 担当者名 前田 美香
 電 話 0920-82-0016 F A X 0920-82-0673

実施日	令和 5年 12月 15日 (金) 13 : 30 ~ 16 : 30				
場 所	対馬市立東部中学校 多目的室				
講座名	健康と命の大切さ～がん患者の理解と共生～				
講 師	長崎県対馬病院 診療部長 俵 正幸 氏				
近隣校への案内	案内先： 対馬市内近隣小中学校				計 5 校
参加者	生徒	学校職員	保護者	他校職員等	その他
	2・3年生 (16)人	(4)人	(0)人	(0)人	()人
総計(20)人					
テーマと内容	テーマ「健康と命の大切さ～がん患者への理解と共生～」 ・人の数だけ違いがあり、自分と同じ人はいないこと(多様性)、自分も他者もかけがえない存在であること(唯一性)を知る。・がん治療でハンディを背負いながら社会で生きていくことに意識を向ける。(がん患者への理解と共生)・生と隣り合わせの死を通して命の大切さを伝える。				

＜当日の様子＞ * 事業の様子等を必ず画像で添付してください。



＜講師からの指導や助言・成果＞

- ・2人に1人はがんに罹り、風邪や肺炎と同じくらい身近な病気である。
 - ・人体は37兆個の細胞からできており、細胞分裂をする過程で起きるミスコピーでがんになる。
 - ・高齢になると修復し細胞を正常に保つ働きが低下する。がんは誰もがなりうる病気である。
 - ・生活習慣やウイルスなど予防できるがんもあるので、今自分にできることを心がける。
 - ・治療法は、手術、抗がん剤、放射線の他に抗体療法、分子標的療法、免疫療法がある。
- 感想・アンケート結果から、がんが身近な病気であることが分かり、日頃から健康な体づくりに取り組むこと、将来検診を受けること、家族に学びを伝えることについて意識が向上した。

＜今後の取組及び課題＞ * 今後のがん教育の充実に向けての活用等

がんの正しい知識とあわせて、身近に存在するがん患者とどう向き合うのか、がん患者が暮らしやすい社会づくりとは何かを考え、自他の命や健康の大切さを考える機会を作っていきたい。